大学教育学会ニュースレター

No.120 2022.04.20

一般社団法人大学教育学会 (Japan Association for College and University Education)

事務局: 〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204

TEL/FAX: (042) 707-8112

郵便振替口座: 00210-9-102857 一般社団法人大学教育学会

E-mail:office@jacue.org URL: http://jacue.org

大学教育学会第44回大会を開催するにあたって

大学教育学会第 44 回(2022 年)大会 大会実行委員長 秦 敬治

本年の6月4日(土)と5日(日)の両日、大学教育学会第44回大会を、岡山理科大学岡山キャンパスで開催させて頂くことになりました。ここ2年間の大会は新型コロナまん延のためオンライン開催を余儀なくされましたが、現在のところ今回の大会は対面開催を目指しており、基調講演とシンポジウムに関してはオンラインの併用で行う予定です。大会実行委員会といたしましては、会員の皆様が充実した時間を過ごせるよう、学会事務局の全面的な支援を頂きながら、心を込めて準備を進めております。

ご存知のように、世界的パンデミックの影響で社会だけでなく、教育現場も一気に変化することとなりました。大学においてもオンライン授業が浸透し、これまで我々が想像していた以上の進歩や進化を遂げていますが、残念ながら我が国の DX 化は世界的に見ても、アジアの中においても最も遅れている国の一つに数えられています。今こそ、我が国における教育・研究や管理運営の DX 化が早急に求められているのではないでしょうか。

そこで今回の大会では、統一テーマを『大学教育のDX-テクノロジーがもたらす大学教育のイノベーションー』と題し、大学教育や教育をサポートする管理運営における DX 化の現状や課題、そして未来に向けての夢に繋がる議論を展開することが企画されました。基調講演では、落合陽一氏(メディアアーティスト、筑波大学准教授)に『「魔法の世紀」の大学教育ビジョン』と題した講演を依頼し、シンポジウムでは『DX は大学教育にどのようなイノベーションをもたらすのか?』と題して、梶田将司氏(京都大学情報環境機構 IT 企画室教授)、茂出木謙太郎氏(デジタルハリウッド大学准教授)、神馬豊彦氏(早稲田大学人事部業務構造改革担当副部長)に登壇いただきます。これら基調講演やシンポジムにおいて、大学教育の DX に対して、多角的な視点からの事例や知見を吸収いただき、自らの教育研究や自大学での運営に活かしてもらえたら幸いです。

高等教育においては、「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」によって、ポストコロナ時代に高等教育における教育手法の具体化と成果普及が始まっています。また、数理・データサイエンス AI 教育の全国展開も始まっており、2025 年度にはすべての大学・高専生が初級レベルの能力習得が目指されています。そのような中で今回の大会が、本学会が掲げる「大学教育に関わる知の交流と実践による革新を進め、学術に根ざした成果を広く世界に発信して、社会に貢献する教養ある人間の育成に寄与します。」に近づけるものとなるよう、多くの学会員の皆さんが発表や参加されることを願うとともに、大会実行委員会が可能な限りサポートできるよう準備いたします。3 年ぶりに皆さまと対面でお会いできることを楽しみにいたしております。

大学教育学会第 44 回(2022年)大会

統一テーマ

「大学教育の DX-テクノロジーがもたらす大学教育のイノベーション-」

1. 開催期日、形式および会場

期 日 2022 (令和4) 年6月4日「土]、6月5日「日]

形 式 ハイブリッド形式 (対面を基本とするが、基調講演・シンポジウムはオンライン配信も行う)

※ 新型コロナウイルス感染状況により、変更となる可能性があります。

会 場 岡山理科大学岡山キャンパス (岡山県岡山市北区理大町1-1)

JR岡山駅から岡電バス「47 岡山理科大学」行で約20分

参加受付・初めて参加する人のためのオリエンテーション A1号館

ラウンドテーブル:A1号館、C1号館

基調講演・シンポジウム・事業報告会: C1号館8階 理大ホール

自由研究発表・ポストワークショップ:A1号館

2. 大会日程

第 1 日:6月4日 [土]

8:45	10:00	12:00 12:4	15 13	3:00 14	: 00 16:45	17::00	17:40
受付	ラウンド テーブル	昼食	開会 行事	基調講演	シンポジウム	事業報告記	会

~9:00-9:45 初めて参加する人のためのオリエンテーション

8:45 受付開始 (A1 号館 1 階スチューデントコモンズ)

9:00 - 9:45 初めて参加する人のためのオリエンテーション (A1号館)

10:00 - 12:00 ラウンドテーブル(A1 号館、C1 号館)

12:00 - 12:45 昼食

12:45 - 13:00 開会行事 (C1 号館 8 階 理大ホール)

13:00 - 14:00 基調講演 (C1 号館 8 階 理大ホール)

「「魔法の世紀」の大学教育ビジョン」

落合 陽一(メディアアーティスト、筑波大学准教授)

※落合氏はオンライン参加

14:00 - 16:45 シンポジウム

「DX は大学教育にどのようなイノベーションをもたらすのか?」

梶田 将司(京都大学)、茂出木 謙太郎(デジタルハリウッド大学)、

神馬 豊彦(早稲田大学)

16:45 - 17:00 (休憩)

17:00 - 17:40 事業報告会

※ 基調講演・シンポジウムは、事前支払いを完了した会員限定でリアルタイム・オンライン 配信を予定。

第 2 日:6月5日 [日]

10:00	15	2:00	13:00	15:00	15:15	1	17:15
自	由研究発表I	昼食	自	l由研究発表II		ポスト ワークショップ	

10:00 - 12:00 自由研究発表 I (A1 号館)

12:00 - 13:00 昼食

13:00 - 15:00 自由研究発表 II

15:00 - 15:15 (休憩)

15:15 - 17:15 ポストワークショップ※ (A0124、A0125)

※ ポストワークショップは以下の2つを開催

ポストワークショップ(各定員 50 名、有料:各 3000 円(教材のテキスト料金を含む))を実施いたします。今大会では A「大学職員の能力開発を個人と組織の原動力にするために一部下や後輩を指導する立場を中心に考える一」と B「ポストコロナと DX の進展で変わる就職活動一企業の採用戦略と大学教育はどう向き合うか?一」の 2 種類を実施します(同時刻開催)。参加を希望される方は大会参加申し込みと合わせてお申し込みください。

〇ポストワークショップ A「大学職員の能力開発を個人と組織の原動力にするために一部下や後輩を指導する立場を中心に考える一」

講師:竹中 喜一(愛媛大学)

会場: A0124

大学職員の能力開発の方法は大きく OJT、Off-JT、自己啓発に分かれます。それらの成否は能力開発を行う個人だけでなく、組織あるいはそこに所属する他者の影響を大きく受けます。本ワークショップは、部下や後輩を指導する立場にある大学職員の視点を中心に、能力開発が個人の自己実現や組織の業績向上に結実するための戦略や方法を検討することを目的として行うものです。また、参加者自身がこれまでの大会等を通じて学んだことを振り返り、それを所属組織での業務に活用するための方向性や課題について考察を深める機会ともしたいと考えています。SD を担当されている人事部門の職員の方や、部下や後輩指導を日常的に行っている職員の方、大学職員の能力開発に関心を寄せる教職員の方からのご参加をお待ちしております。特段の前提知識は不要ですが、所属組織(大学全体もしくは部署)の職員の能力開発について特徴と課題を口頭で共有できるようご準備をいただくと、スムーズに参加できるワークショップです。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、竹中喜一・中井俊樹編(2021)『大学 SD 講座 4 大学職員の能力開発』(玉川大学出版部)が配付されます。

〇ポストワークショップ B「ポストコロナと DX の進展で変わる就職活動—企業の採用戦略と大学教育は どう向き合うか?—」

講師:松村 直樹(リアセック)・曽和 利光(人材研究所:ゲスト講師(非会員))

会場: A0125

企業の採用活動における DX の進展は、コロナ禍によって加速され、学生の就職活動は大きく様相を変化させています。さらに新卒人口の減少は採用活動を早期化させ、活動の長期化や手法の多様化に拍車をかけています。ポストコロナにおいても採用戦略の方針転換は難しいと考えられます。本ワークショップでは、DX の方法論にとどまらず、インターンシップを含む就活シーンの現状について話題提供することを一つの目的とします。一方で、企業は現状を良しとは考えていません。活動の早期化・長期化・多様化はコスト増を生むばかりです。また、そうやってようやく入社させた新卒者の早期離職を防ぐためにオンボーディングの施策にも腐心せねばなりません。採用戦略を担う企業人事の期待を本音ベースでお伝えすることもワークショップの狙いの一つです。その上で、学生の円滑なトランジションと、企業・大学双方

にとって望ましい接続の実現に対して、大学はいかに向き合うかを会場と共に考えたいと思います。ワークショップでは松村会員による大学教育とキャリアの繋がりについての話題とともに、ゲスト講師として、企業への人事コンサルティングを行なっている (株)人材研究所代表取締役社長 曽和利光氏をお招きし、ポストコロナと DX をめぐる企業の採用戦略をお話しいただきます。曽和氏は、リクルートで人事採用部門のゼネラルマネージャーとして活躍された後、オープンハウス、ライフネット生命保険など複数の業界で人事部門を担当され、現在は、就職活動や採用面接についての多くの著書を発表されるとともに、オンラインニュースでも多彩な連載をされており、就職活動等の現状を幅広く把握、情報発信されています。本ワークショップ参加者には、テキストとして、リアセックキャリア総合研究所監修、PROG 白書プロジェクト編著(2021)『大学教育とキャリアの繋がりを解明(PROG 白書 2021)』(学事出版)が配付されます。

進行の詳細

6月4日 (土)

8:45~ 受付

9:00~9:45 初めて参加する人のためのオリエンテーション

会場: A1 号館 1 階 106 プレゼンルーム 担当: 事業構想委員会

10:00~12:00 ラウンドテーブル

テーブル 1 教育プログラムの評価と改善における教育情報の活用およびIRの現状と課題-ティップス開発に向けて

会 場: A0122

企画者:鳥居朋子(立命館大学)、岡田有司(東京都立大学)、林透(金沢大学)、大山牧子(大阪大学)、 高橋哲也(大阪公立大学)、串本剛(東北大学)

趣 旨:大学教育の質保証においては、全学-プログラム-授業の三側面で質保証を推進し、それらを有機的につなげることが求められる。とくに、内部質保証システムを整備し IR 機能を活用しつつ、専門分野の特質に応じてプログラムの評価と改善の連動を強化することは重要な課題である。しかし、データに基づくプログラム評価および改善のグッドプラクティスや知見の共有は十分ではない。本 RT では学部における教育情報の活用および IR の現状と課題を解明することを目的に、昨年度の成果をふまえながら、主に人文・芸術等の分野に注目する。全国調査およびヒアリング調査の結果を検討した上で、ティップス開発の展望についてフロアとともに議論する。

テーブル2 一般教育の知的遺産を活かす: [その13] 教養教育としてのインターンシップ

会 場: A 0123

企画者:深野政之(大阪府立大学)、亀倉正彦(名古屋商科大学)、小山悦司(倉敷芸術科学大学)、塩沢一平(二松学舎大学)

趣 旨:今回は岡山県内15大学が連携して作り上げた「D-Internship」プログラムと、名古屋商科大学商学部の実践報告を通して、インターンシップを教養教育の視点から検討する、本ラウンドテーブルでは「学生の自己教育」(2019年)と「欠如態の思想」(2020年)において、専攻主軸のカリキュラムから欠落するものがあるという認識(絹川、2015)のもと、これをカリキュラム内外の学習経験を通じて修得していくという教養教育の課題について検証してきた、今回も現在の大学教育改革と一般教育の知的遺産について議論を深めていきたい、報告1:自己教育力を高めるインターンシップ(小山悦司)報告2:欠如態の思想からみたインターンシップ(亀倉正彦)

テーブル3 コロナ禍が学生の学びと成長に与えた影響—大規模調査から大学教育の今とこれ からを考える

会 場: A0124

企画者:山田剛史(関西大学)、木村治生(株式会社ベネッセコーポレーション)

テーブル4 保健医療福祉系大学における教養教育の問題(13)-大学教育における医療・福祉 関係資格の共通基礎課程構築の課題-

会 場: A 0125

企画者: 志水幸(北海道医療大学)、宮本雅央(青森県立保健大学)、遠藤良仁(岩手県立大学)、町田修三(高崎健康福祉大学)、森元拓(山梨大学)、山下匡将(名古屋学院大学)

趣 旨:これまで、本ラウンドテーブルでは、保健医療福祉系大学における教養教育の問題について、に理念的・本質論的な観点から議論を積み重ねてきた。しかし、昨今の保健医療福祉分野では、人口減少社会における専門職人材の有効活用の観点を踏まえタスク・シフト/シェアの推進に関する議論が進行中である。この動向について、以前から構想されてきた共通基礎課程との関連から注視する必要がある。殊に、共通基礎課程の議論では、専門教育のみならず教養教育との関連性が重要な論点となることは論を俟たない。そこで、本ラウンドテーブルではその嚆矢として保健医療福祉系大学におけるDPに着目し、求められるコンピテンシーの現状について議論したい。

テーブル5 授業を研究対象とするSoTLにおける倫理を考える

会 場: A0126

企画者:井上史子(帝京大学)、安岡高志(帝京大学)、中井俊樹(愛媛大学)

趣 旨:本RTでは授業を研究対象とする SoTL を進めるにあたり留意しなければならない倫理について現状共有と今後のあり方について探ることを主目的とする。大学教育学会では倫理綱領及び基準において不正に関する倫理と個人情報保護法の立場からの人を対象とする研究倫理について述べている。SoTL 実践もこれに従うことは言うまでもないが、授業を研究対象とする SoTL は特に学生への配慮が必要である。教育研究はその対象も倫理的配慮を要する場面も多様で複雑であり、それが研究遂行を難しくすることも指摘されている。ここでは教育倫理の立場、人を対象とする研究の立場、学内倫理審査の立場、SoTL を推進する立場から倫理について発表を行う。

テーブル6 教職課程の必修体育の在り方

会 場: A0132

企画者:小林勝法(文教大学)、北徹朗(武蔵野美術大学)

趣 旨:体育(2単位)の履修は、教育職員免許法施行規則第66条の6で定められているが、その教育内容と方法については定められておらず、文部科学省の公式見解では「講義のみ又は実技のみの内容の科目でも差し支えない」としている。一方、保育士養成課程では「体育に関する講義及び実技 それぞれ一単位」が必修と定められている。多くの大学では教養体育として開講し、その開講形態や教育内容はまちまちであるが、それで良いのであろうか。日本体育学会が行った教育内容や方法に関する実態調査や先進的なカリキュラム開発をしている大学の事例を参考にして、課題を整理し、今後の可能性について、高等教育のデジタル化の面からも検討する。

テーブルフ 汎用的能力の育成と評価の可能性―ミネルヴァ・モデルを手がかりに―

会 場: A 0133

企画者:松下佳代(京都大学)、田中孝平(京都大学)、斎藤有吾(新潟大学)、大野真理子(京都大学)、 岡田航平(京都大学)

趣 旨: 汎用的能力の育成・評価にはいくつかのタイプがある。本セッションでは、ミネルヴァ大学の理論と実践を手がかりに、汎用的能力の育成・評価のあり方を多角的に検討する。正課授業をすべてオンラインで行うミネルヴァ大学は、コロナ禍でいっそう高い注目を集めているが、ミネルヴァの教育の特色は、正課教育だけでなく準正課・課外活動まで視野に入れなければ捉えることができない。本セッションでは、2年あまりにわたって実施してきたミネルヴァの教員・学生のインタビューをふまえながら、目標、カリキュラム、授業、評価、準正課活動、教員研修といった点から、ミネルヴァ・モデルが汎用的能力の育成・評価にもたらした知見を明らかにする。

テーブル8 大学の自律的な経営行動-事務組織の機能と役割

会 場: CO131

企画者:鎌田雅子(日本経済大学)、中山紘之(岡山理科大学)、山﨑その(京都外国語大学)、山咲博昭(広島市立大学)、秦敬治(岡山理科大学)

趣 旨: 昨今、我が国の大学ではこれまで以上に自律的な経営判断が求められる局面が増加している。また、教学・法人の両方を支援する事務組織に対する力量向上への期待は大きい。しかし、経営行動に対する事務組織の貢献度やその規定要因が明らかになっているとは言い難い状況にある。本ラウンドテーブルでは、米国の事例から示唆を得た「大学の自律性」を切り口として、ガバナンス改革に関する議論も踏まえ、「組織の意思決定と執行に高く貢献している事務組織の特性」について参加者とともに議論したい。なお、ディスカッション材料として、現在遂行中の科研費研究による、私立大学事務局長を対象とした質問紙調査の速報値の提供を予定している。

テーブル9 入学前教育の今後の課題と展開

会 場: CO141

企画者:溝口侑(桐蔭横浜大学)、斉藤準(帯広畜産大学)、木原宏子(立命館大学)

趣 旨:大学進学者の多様化が進む中で,入学前教育が果たす役割は大きい。しかし,現在までのところ,大学の在り方や学部の特性を踏まえた,入学後のカリキュラムへの接続のあり方については十分に議論されているとは言えない。そこで,本ラウンドテーブルでは,3 つの異なる特性をもつ大学の入学前教育を事例として取り上げ,高校から大学へのトランジションの観点から入学前教育の課題を明らかにし,入学後の教育への接続について示唆を得ることを目的とする。

テーブル10 教養教育の目的と内容・方法の国際比較—社会的役割・専攻教育との関係性に着 目して

会 場: CO143

企画者:深堀聰子(九州大学)、夏目達也(桜美林大学)

趣 旨:2000年代以降、学生が卒業後の生活に柔軟に対応しうるよう、柔軟性・学際性・雇用可能性・国際性が重視されるようになり、幅広く学ぶリベラル・アーツへも回帰する動きが、世界各国で見られるようになった。日本の教養教育は、第二次世界大戦後、民主化を担う市民を育成する役割を担って、専攻教育を中心とする高等教育システムに導入されたが、大学設置基準の大綱化を経て、判断力・創造力・課題探求能力を育成する役割を担うようになり、育成する人材像の曖昧性や専攻教育との接続の不整合の問題を孕みながら、今日に至っている。このラウンドテーブルでは、国際比較のアプローチから、日本の教養教育の特徴と今日的課題を探究する。

テーブル11 大学教育への組織開発的アプローチとその成果 ~小集団の活性化を梃子にしてより大きな集団の活性化を実現する~

会 場: CO144

企画者:川崎弘也(株式会社ラーニングバリュー)、本田直也(大手前大学)

趣 旨:このラウンドテーブルでは、教育のコンテンツやツールではなく、大学教育の場における学生間

の関係性や教員と学生間の関係性に着目し、その活性化を促すことで学生の学びのモチベーションを高める組織開発的なアプローチの実践事例を共有したい。とりわけ小集団の活性化を梃子にして、より大きな集団のモチベーションを高めている大学の複数の事例を取り上げ、同様のことを再現するときに、何がキーファクターとなり、教員の役割は何なのか、課題は何なのかなど、フロアの皆さんと意見交換する場としたい。

テーブル12 【課題研究】

大学教育・経営人材の育成を考える―教育プログラム設計の視点から

会 場: CO151

企画者:福留東土(東京大学)、寺﨑昌男(立教大学・桜美林大学(名誉))、戸村理(東北大学)、中世古 貴彦(九州産業大学)、栗原郁太(東京大学大学院)、木村弘志(一橋大学・東京大学)、井芹俊太 郎(神田外語大学)

趣旨:本RT は学会課題研究「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」による企画である。複数の大学で展開されている大学専門人材の育成を行うプログラム(大学院や履修証明プログラム)に焦点を当てる。各プログラムでは、大学専門人材の育成においてどのような知識や能力を育成することが重要なのか、どういうタイプや志向を持った人々が受講するのかなど、様々な要因を勘案しながら教育内容・方法の構築や改編が行われている。RTでは、単に各取組を紹介するのではなく、プログラムのあり方を通して大学教育・経営人材の育成に何が重要なのかという課題を考えることに繋げたい。関心ある皆様の参加をお待ちしています。

テーブル13 【課題研究】

非対面大学教育の学修成果評価の事例

会 場: CO152

企画者:塚原修一(関西国際大学)、濱名篤(関西国際大学)、山田礼子(同志社大学)、深澤晶久(実践女子大学)

趣 旨:2021年度課題研究「コロナ禍がもたらす大学教育の可能性〜対象・方法・内容〜」のサブテーマ 「非対面大学教育における学修成果の評価」によるラウンドテーブルである。2022年度の計画の うち国内の先進事例の調査にあたるもので、事例を探索するさいの注目点に関する考察(報告1) と2つの事例報告により構成する(報告題名はいずれも仮題)。 ・報告1「非対面大学教育など における学習と評価」塚原修一(関西国際大学)・報告2「熊本大学大学院教授システム学専攻 の経験」中嶌康二(関西国際大学)・報告3「社会情報大学院大学の場合」篠田雅人(社会情報 大学院大学)

テーブル14 【課題研究】

ニューノーマル時代における学習環境・学習支援のデザインを考える

会 場: CO153

企画者:千葉美保子(甲南大学)、村上正行(大阪大学)、岩崎千晶(関西大学)、川面きよ(帝京大学)、 浦田悠(大阪大学)、遠海友紀(東北学院大学)、嶋田みのり(東北学院大学)、多田泰紘(京都橘 大学)、石井和也(宇都宮大学)

趣 旨: 課題研究「コロナ禍がもたらす大学教育の可能性〜対象・方法・内容〜」のサブグループ「ニューノーマル時代における学習環境デザインモデルの構築」では、コロナ禍による影響が大学教育へ及ぶ中、これからの学習環境のあり方を検討するため、各大学の学習スペース担当者へのインタビューやアンケート調査等を行い、蓄積した経験知の集約を進めている。今後、体系的な分析を進め、ニューノーマル時代における学習環境デザインモデルの構築に寄与する Tips 集の開発を目指している。本ラウンドテーブルでは、これまでの調査・分析の事例や成果を共有した後、参加者の皆様とともにこれからの学習環境や学習支援に必要な要素について議論を行いたい。

12:00~12:45 昼食

12:45~13:00 開会行事 会場: C1号館 8階 理大ホール

13:00~14:00 基調講演

会 場:C1号館 8階 理大ホール

演 題:「魔法の世紀」の大学教育ビジョン

講 師:落合 陽一 氏(メディアアーティスト、筑波大学准教授)

司 会:秦 敬治(岡山理科大学、本大会実行委員会委員長)

14:00~16:45 シンポジウム

「DXは大学教育にどのようなイノベーションをもたらすのか?」

会 場:C1号館 8階 理大ホール

シンポジスト:

企業側からみた学生の変化 : 梶田 将司 (京都大学)

学修成果の可視化からみえる学生像 : 茂出木 謙太郎 (デジタルハリウッド大学)

先行的実践の取組からみえる学生の育ち:神馬 豊彦 (早稲田大学)

司 会:秦 敬治 (岡山理科大学 本大会実行委員会委員長)

16:45~17:00 休憩

17:00~17:40 事業報告会 会場:C1号館 8階 理大ホール

6月5日 (日)

9:30~ 受付

10:00~12:00 自由研究発表 I (Oは登壇者)

部会 1 初年次教育(1)

会 場: A0122

司 会:濱名篤(関西国際大学)、 白川優治(千葉大学)

10:00~10:20 類似度評定ツール Feedback Studio を利用したライティング指導

○高橋薫(創価大学)、○佐藤広子(創価大学)

10:20~10:40 談話標識を使った日本語リテラシーのトレーニング~その成果と課題

○梅村修(追手門学院大学)

10:40~11:00 ブックトークを通じた読解ストラテジーの獲得支援

○三宅若菜(東京経済大学)

11:00~11:20 初年次教育科目における LTD (話し合い学習法)の教育効果

○松尾美香(岡山理科大学)、○望月雅光(創価大学)

11:20~11:40 議論(論証)の質的向上の促進要因に関する研究 —「意見文」の作成に焦点を当てて—

○坂本智香(高知大学)

11:40~12:00 総合討論

部会2 教育方法・教育改善(1)

会 場: A 0123

司 会:村上正行(大阪大学)、高橋哲也(大阪公立大学)

10:00~10:20 遠隔授業での評価を活かした外国語授業の改善

○劉卿美(長崎大学)、橋本健夫(西九州大学)、橋本優花里(長崎県立大学)

10:20~10:40 コロナ禍における遠隔授業に対する教員 - 学生間の反応の違い:前年度との比較を中心

に

○長沢誠(埼玉大学)

10:40~11:00 大学のハイフレックス型講義における多層指導の実践的検討

○真名瀬陽平 (流通経済大学)

11:00~11:20 デジタル Diamond Mandala Matrix を用いた反転授業形式によるオンライン授業の実

践と分析

○青木成一郎(京都情報大学院大学)、小林信三(京都情報大学院大学、非会員)、 楢木隆彦(京都情報大学院大学、非会員)、土持法一(京都情報大学院大学)、 岡本敏雄(京都情報大学院大学、非会員)

11:20~11:40 「場」としての大学

○江原昭博(関西学院大学)

11:40~12:00 総合討論

部会3 教育方法・教育改善(2)

会 場: A0124

司 会:松下佳代(京都大学)、杉本和弘(東北大学)

10:00~10:20 アクティブ・ラーニング型授業による社会人基礎力の成長段階モデル案作成の試み

〇佐瀬竜一(常葉大学)、増井実子(常葉大学、非会員)、谷誠司(常葉大学、 非会員)、戸田裕司(常葉大学、非会員)、安武伸朗(常葉大学、非会員)、渡辺 学(常葉大学、非会員)、柘植健一(常葉大学、非会員)

10:20~10:40 フィードバックを活用する仕組みづくり

〇石毛弓(大手前大学)、合田美子(熊本大学、非会員)、山本佐江(帝京平成大学、非会員)

10:40~11:00 学生の自己省察力向上を目指したルーブリックのデザイン

○大塚みさ(実践女子大学短期大学部)、○三田薫(実践女子大学短期大学部)

11:00~11:20 学生の自己評価力を向上させうる教授法の特徴と課題の検討

〇岩田貴帆 (京都大学大学院)

11:20~11:40 創造的な問いの育成と評価のためのフレームワーク

○池田文人(北海道大学)、飯田直弘(北海道大学、非会員)、岩間徳兼(北海道大学、非会員)、田村志穂美(北海道大学、非会員)、板東信幸(北海道大学、非会員)

11:40~12:00 総合討論

部会4 ライティング

会 場: A 0125

司 会:深堀聰子(九州大学)、岩崎千晶(関西大学)

10:00~10:20 共通教育から考えるレポート作成能力の向上

○吉永契一郎(金沢大学)

10:20~10:40 大学初年次に受講した正課外ライティング学習の効果~2 年次に行ったインタビュー調

査の質的分析から~

○多田泰紘(京都橘大学)、藤田里実(関西大学)、岩崎千晶(関西大学)、中澤務(関西大学、非会員)

10:40~11:00 レポート論題における制約条件の分類について-web 調査の分析から

○成瀬尚志 (大阪成蹊大学)、崎山直樹 (千葉大学)

11:00~11:20 AI を活用したレポート評価支援ツールの開発と運用上の効果について

○前田裕介(大阪大谷大学)、大倉孝昭(大阪大谷大学、非会員)、廖于晴(大阪大谷大学、非会員)

11:20~11:40 学生の文章力低下にどのように対峙するか

○三浦真琴(関西大学)

11:40~12:00 総合討論

部会 5 学生支援

会 場: A0126

司 会:川越明日香(熊本大学)、山内正平(千葉大学)

10:00~10:20 大学と就労支援事業所とが連携した ASD 学生の就労支援の効果と課題について

○小川勤(静岡福祉大学)

10:20~10:40 発達障害のある学生の就労支援Ⅲ

○田実潔(北星学園大学)

10:40~11:00 大学生における「居場所」の生成と消滅に関する考察

〇石井和也 (宇都宮大学)

11:00~11:20 コロナ禍における大学生の学習と生活の実態

○王帥 (東京大学)

11:20~11:40 総合討論

部会6 学士課程教育(1)

会 場: A0132

司 会:杉谷祐美子(青山学院大学)、塚原修一(関西国際大学)

10:00~10:20 芸術分野ディプロマ・ポリシーの構造と内容傾向

〇上月翔太(愛媛大学)

10:20~10:40 ソーシャルワークにおける批判的思考:社会福祉専門職養成課程の教育目標としての定

義の探究

○久保田祐歌(関西福祉科学大学)、中井俊樹(愛媛大学)、新原将義(帝京大

学、非会員)

10:40~11:00 教学 IR における学修成果認識の捉え方:卒業生を含むパネルデータ分析の試み

○串本剛(東北大学)

11:00~11:20 不本意な学科所属がその後の学業成績に及ぼす影響の検討

〇西出崇 (小樽商科大学)

11:20~11:40 コロナ禍の共通教育の光と影

○清水亮(神戸学院大学)

11:40~12:00 総合討論

部会7 大学運営・評価

会 場: A0133

司 会:山田礼子(同志社大学)、鳥居朋子(立命館大学)

10:00~10:20 内部質保証の定義と論点の変遷における一考察

○山咲博昭(広島市立大学)、○荒木俊博(淑徳大学)、○岩野摩耶(山口大学)

10:20~10:40 新潟大学の学位プログラム評価における学内ピアレビュー —レビュアーを務めた教員 へのヒアリングを踏まえて —

○樋口健(新潟大学)、斎藤有吾(新潟大学)

10:40~11:00 コロナ禍が中国大卒者の海外進学に与えた影響—エリート大学を中心に

○劉文君 (東洋大学)

11:00~11:20 卒業生からみたコロナ禍における短期大学教育に対する評価とは-2020-2021 年度短期 大学卒業生調査結果比較-

> ○堺完(大分大学)、○宮里翔大(桜美林大学大学院)、山崎慎一(桜美林大学)、 黄海玉(大学・短期大学基準協会)

11:20~11:40 大学院における「文理融合」教育の評価に関する一考察—「学際性」の概念を援用して

○竹永啓悟(同志社大学)

11:40~12:00 総合討論

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00 自由研究発表 II (Oは登壇者)

部会8 初年次教育(2)

会 場: A0122

司 会:池田輝政(U&C ストラテジー)、山田剛史(関西大学)

13:00~13:20 入学難易度が中程度の大学における全学共通教育の実践報告

○伊藤文男(追手門学院大学)、○田上正範(追手門学院大学)、○梅村修(追手門学院大学)

13:20~13:40 英語学習の個人の目標設定へのピア活動

〇山田悦子(北海道大学)

13:40~14:00 「問い」を立てる能力をいかにして開発するか

○須長一幸(福岡大学)

14:00~14:20 新たな学習への関心を喚起する地域活動入門授業の検討

〇櫻井典子 (新潟大学)、飯島康夫 (新潟大学、非会員)

14:20~14:40 総合討論

部会9 教育方法・教育改善(3)

会 場: A0123

司 会:飯吉弘子(大阪公立大学)、吉永契一郎(金沢大学)

13:00~13:20 オンラインでのアクティブラーニング(AL)型授業のチャレンジ ~一般教育科目「環境研究」を通した批判的思考と創造性を育む教育実践

〇布柴達男(国際基督教大学)、藤沼良典(国際基督教大学、非会員)

13:20~13:40 繰り返し再生可能なプレゼンテーションとその相互評価の学習課題がもたらす改善行動

〇丹羽量久(長崎大学)

13:40~14:00 メタ認知尺度を用いた大学生の主体的な学びの評価の検討

○金西計英 (徳島大学)

14:00~14:20 大学教員への調査を通じた歴史系科目の授業運営上の要素分析

○千葉美保子(甲南大学)

14:20~14:40問題解決スキルの学習におけるオンライン PBL の有効性 – 直接評価による対面 PBL との比較 –

○小野和宏 (新潟大学)、斎藤有吾 (新潟大学)、松下佳代 (京都大学)

14:40~15:00 総合討論

部会10 教育方法・教育改善(4)

会 場: A0124

司 会:圓月勝博(同志社大学)、筒井洋一(京都工芸繊維大学)

13:00~13:20 サービス・ラーニングにおける学習成果の構成的整合: Constructive Alignment の視点から

○杉原真晃(聖心女子大学)

13:20~13:40 オープンダイアローグとの類似点を元に、第三者が参加して学生の対話の質を上げる授業の展開と成果について

○筒井洋一(京都工芸繊維大学)

13:40~14:00 医療の国際化へ向けた語学力の育成プログラム開発

〇出野由紀子(神奈川歯科大学)

14:00~14:20 反転授業の新展開-学生自身の選択による学習-

○庄司善彦(兵庫県立大学)

14:20~14:40 体育実技における AL 型授業と ICT 教育の活用に関する一考察

○高瀬武志 (桐蔭横浜大学)

14:40~15:00 総合討論

部会11 学習支援

会 場: A0125

司 会:藤木清(関西国際大学)、清水栄子(追手門学院大学)

13:00~13:20 日本の学士課程教育における学習支援に関する基礎的考察~学習支援に関する全国調査分析を通して~

○林透(金沢大学)、○我妻鉄也(千葉大学)、大関智史(旭川医科大学)、浜島幸司(函館大谷短期大学)、長澤多代(三重大学)、清水栄子(追手門学院大学)、宝来華代子(崇城大学、非会員)

13:20~13:40 学生アシスタントが「教える」過程と意義 -- アシスタントの立場からの検討

○西野毅朗(京都橘大学)、多田泰紘(京都橘大学)、薗田竜弥(神戸大学、非 会員)

13:40~14:00 グローバルコモンズにおける能動的学習の実践 - 英語ディスカッションイベントを通じた学生の成長実感とその考察-

○京都産業大学教育支援研究開発センター (○遠藤美由樹、杉江昌子)

14:20~14:40 「ピア・サポーター活動の成長プロセスとその要因における定量的評価」 —Student Success Program(SSP)ピア・サポーターの事例から—

〇岸岡奈津子(立命館大学)、立命館大学学生部(山野洋一、松本清、茅根未央、 渡邉あい子、石田明菜、西田祐太郎、五坪智彰)、木原宏子(立命館大学)

14:00~14:20 学生生活のセルフマネジメントスキルの評価ツール「Student Success 尺度」の開発 ○立命館大学学生部(○松本清、山野洋一、石田明菜、渡邉あい子、茅根未央、 西田祐太郎、五坪智彰)、岸岡奈津子(立命館大学)、木原宏子(立命館大学)、

14:40~15:00 総合討論

部会12 高大連携・高大接続・キャリア教育

会 場: A0126

司 会:近田政博(神戸大学)、望月雅光(創価大学)

13:00~13:20 SNS と新聞を活用した遠隔入学前教育の高大社連携による改善

○中世古貴彦(九州産業大学)、○小田部貴子(九州産業大学)、○森誠子(九 州産業大学)

13:20~13:40 高校の探究学習と大学における卒業研究の教育接続についての検討 —研究大学に在籍 する理工系学生の語りに着目して—

○田中孝平(京都大学大学院)

13:40~14:00 入学前教育の意義と課題に関する一考察 - 入学前教育を経験した高校生の語りを通し て-

○岡田航平(京都大学大学院)

14:00~14:20 「キャリア形成」の素朴概念についての研究

○小田部貴子(九州産業大学)

14:20~14:40 大学院生のアカデミック・キャリアを支援する上での課題ー神戸大学「大学教員インターンシップ」プログラムの試行を通して

○近田政博(神戸大学)、○葛城浩一(神戸大学)

14:40~15:00 総合討論

部会13 学士課程教育(2)

会 場: A 0132

司 会:串本剛(東北大学)、小林忠資(岡山理科大学)

13:00~13:20 新潟大学におけるメジャー・マイナーの学習成果に関する学生の認識

○長創一朗(新潟大学)、斎藤有吾(新潟大学)

13:20~13:40 メジャー・マイナーにおける統合的な学習成果の評価方法に関する考察

○斎藤有吾(新潟大学)

13:40~14:00 学士課程において統合的学習をどう設計するか-米国州立大学の事例研究

○福留東土 (東京大学)

14:00~14:20 オンラインによる国際教育プログラムと異文化間能力への効果

〇隅田姿(広島修道大学)、矢田部順二(広島修道大学、非会員)、竹井光子(広島修道大学、非会員)、佐渡紀子(広島修道大学、非会員)

14:20~14:40 リベラルアーツ教育としての経済学史教育の可能性

○山本英司(金沢星稜大学)

14:40~15:00 総合討論

部会14 教職員の能力開発

会 場: A0133

司 会:中井俊樹(愛媛大学)、山咲博昭(広島市立大学)

13:00~13:20 実務家教員のキャリアと教育実践

○二宮祐(群馬大学)、児島功和(山梨学院大学)

13:20~13:40 どのような大学事務職員が非定型的業務に取り組んでいるのか?—「第 2 回全国大学事 務職員調査」より

○木村弘志 (東京大学)

 $13:40\sim14:00$ スタッフ・ディベロップメントにおける研修転移の現状と課題 -四国地区教職員能力開

発ネットワーク (SPOD) 加盟校職員を対象とした調査をもとに-

○竹中喜一(愛媛大学)、藤本正己(愛媛大学、非会員)、上月翔太(愛媛大学)

14:00~14:20 大学教員が抱く授業観の構成の検討

○山田嘉徳(大阪産業大学)、関田一彦(創価大学)

14:20~14:40 SoTL プロジェクト参加者の変化について - 事後アンケート結果から-

○安岡高志 (帝京大学)、井上史子 (帝京大学)

14:40~15:00 総合討論

15:15~17:15 ポストワークショップ

ポストワークショップ A

「大学職員の能力開発を個人と組織の原動力にするために―部下や後輩を指導する立場を中心に考える―」

講 師:竹中 喜一(愛媛大学)

会 場: A0124

ポストワークショップ B

「ポストコロナと DX の進展で変わる就職活動―企業の採用戦略と大学教育はどう向き合うか?―」

講師:松村 直樹(リアセック)・ゲスト講師:曽和 利光(人材研究所、非会員)

会 場: A0125

3. 参加申込みについて

本大会は会員および学生会員のみ、事前申し込みが可能です。学会ウェブサイト内の会員ページから参加登録を行い、5月13日(金)17時までにオンライン決済または口座振込にて参加費をお支払いください。非会員の申込は大会当日、会場でのみ受け付けます。

<u>事前参加費申込・払込期間:2022年4月8日(金)10:00~5月13日(金)17:00</u>迄 【参加費用一覧】

費用項目			申込日			
			5月13日までの事前支払	大会当日		
参 加 費	一般	会員	5,000円	6,000円		
		非会員		6,000円		
	学生	会員	2,000円	3,000円		
		非会員		3,000円		
ポストワークショップ参加費			3,000円(テキスト代含む)			
6月4日お弁当代			1,000 円(税込)			
6月5日お弁当代			1,000 円(税込)			

- 事前支払いを完了した会員は、オンラインで基調講演とシンポジウムのライブ配信を視聴できます。オンラインで基調講演とシンポジウムにのみ参加する場合も、対面での参加費と同額が必要です。
- 参加にかかる合計金額(ポストワークショップ・お弁当申込の場合は、ポストワークショップ参加費・お弁当代を含む)を 5 月 13 日(金)までにオンライン決済または下記口座へお振り込み下さい(振込手数料はご負担下さい)。【締切期間厳守】

大会参加費振替口座 「00200-1-103725」一般社団法人大学教育学会 他行等からの振り込みの際、ゆうちょ銀行 ○二九店(029)当座 0103725

- <団体会員について> 団体会員は事前申込については3名までとさせていただきます。団体会員の場合、1アカウントしかないため、1名しか申し込むことができません。残り2名分の参加者については、学会業務取扱センター(g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp)までご連絡ください。追加でアカウントを発行しますので、そちらで参加事前申込をしていただくことになります。(3名を超える参加者分は、当日会場にて参加申込をお願いいたします。)
- ご登録名義以外でのお振込(公費払い含む)の場合、別途学会業務取扱センター(g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp)まで、送金日・入金額・振込名義・明細等を必ずご連絡下さい。

4. 大会会場へのアクセス

<岡山理科大学岡山キャンパスへのアクセス>



※所要時間は交通状況により異なります。

JR岡山駅運動公園口(西口)から

岡電バス 岡山駅西口 22 番乗り場→ (47 番系統「岡山理科大学」行き)→岡山理科大学下車 20 分タクシー 岡山駅 → 岡山理科大学正門 15 分

・JR法界院駅から

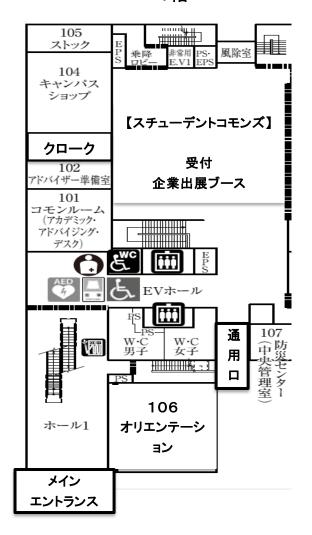
徒歩 20分

<キャンパスマップ>

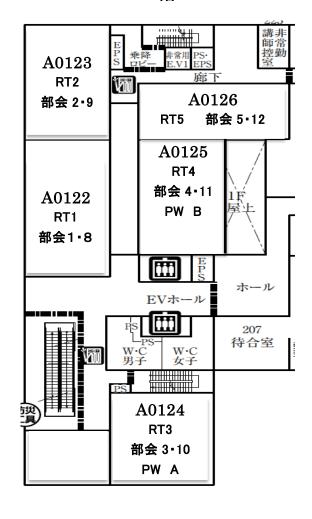


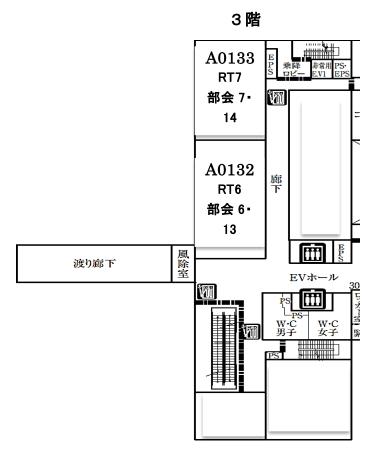
A1号館 フロアマップ

1階

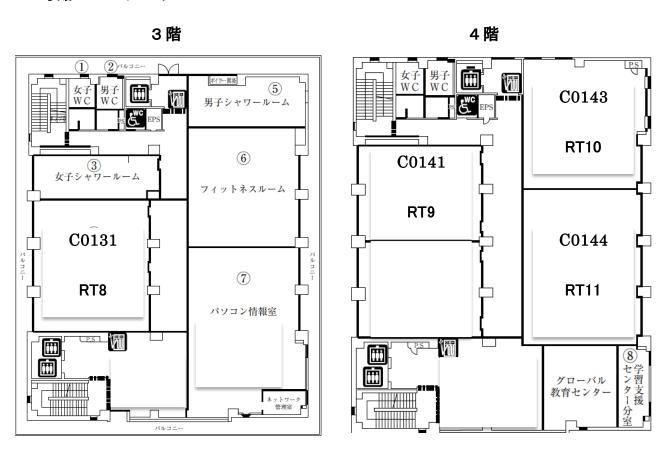


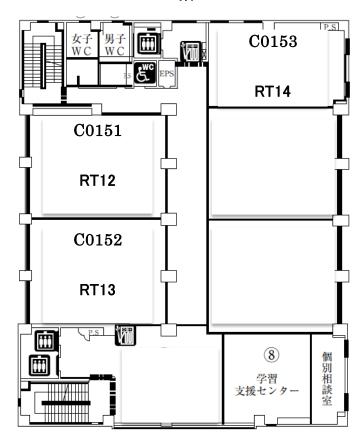
2階





C1号館 フロアマップ





- · 大きなお荷物はA1号館1階 クロークにてお預かりいたします。ご利用ください。
- 大学近辺には食事処がありません。昼食を事前にお申し込みされない場合は、来場前に昼食をご準備ください。
- ・ 自由研究発表、ラウンドテーブルの会場に、発表用の大会校の PC を準備いたしません。PC を用いる場合は、各自ご準備ください。RGB ケーブル、HDMI ケーブルは各部屋に準備いたします。
- ・ ビジター用のアカウント等を用いて会場校の無線 Wifi に接続することはできません。ポータブル Wifi 等を各自でご準備ください。尚、岡山理科大学は Eduroam に参加しております。 Eduroam 参加校の方で、利用アカウントを取得している場合は、Eduroam のサービスをご利用できます。

ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

第44回大会(2022年度)に関するお問い合わせ

大学教育学会 第44回大会実行委員会

E-mail: jacue2022@googlegroups.com

※メールの件名には、「大学教育学会第44回大会に関する問い合わせ」とご記入ください。

2022 年度課題研究集会 プログラム案について

2022 年度課題研究集会 企画委員会・実行委員会

2022 年度大学教育学会課題研究集会は、11 月 26 日(土)~27 日(日)の日程で、東京都立大学を開催校として<u>オンライン形式(Zoom 利用)</u>で開催予定です。企画委員会では、全体テーマを「アセスメントプランの導入と大学教育の課題」として、以下のプログラム(案)で準備を進めています。

「ポスター・セッション」は、予稿集原稿の掲載に加え、研究集会当日にオンラインでの議論ができる形式で実施することを予定しております。発表予定の方は、下段の要領にしたがい、期限までに申し込みくださいますようお願いいたします。

【プログラム(案)】

11月26日(土)

 $10:00 \sim 12:15$ ポスター・セッション

12:15 ~ 13:00 休憩

13:00 ~ 13:20 開会行事

13:30 ~ 15:00 基調講演「学習成果の多元性と教学マネジメントの課題」

矢野真和先生(東京工業大学名誉教授)

15:10 ~ 17:00 開催校シンポジウム

テーマ:「アセスメントプランの導入と大学教育の課題」

概要:大学がアセスメントプランを策定、教育の質保証の方針として運用することは、教育成果の可視化ばかりでなく、ディプロマポリシーをはじめとする教育関連ポリシーの見直しや教育の質的水準の考え方にも影響を与える。本シンポジウムでは、アセスメントプランに焦点を当て、各大学がアセスメントにどのように取り組んでいるのか、そこにおける課題は何かなどを検討し、学生にとって意義ある教育の質保証とは何かについて、アセスメントプランという取組自体の問い直しも含め議論する。

登壇者:3~4名の予定(開催校からの登壇者含む)

11月27日(日)

9:30 ~ 12:00 【課題研究シンポジウムⅠ】/【課題研究シンポジウムⅡ】

12:00 ~ 13:00 休憩

 $13:00 \sim 15:30$ 【課題研究シンポジウム \mathbb{II} 】/【課題研究シンポジウム \mathbb{IV} 】

15:40 ~ 16:00 閉会行事

【ポスター・セッションについて】

11月26日(土)10時から12時15分までの間、オンラインで自由に議論ができる形式で「ポスター・セッション」を実施いたします。この「ポスター・セッション」の発表資格や内容等は、大会の「自由研究」と同等とします。なお、予稿集に掲載する原稿を提出していただくことになります。申込方法、ポスター・セッション当日の発表方法等、詳細は後日学会ウェブサイト及び一斉メールでご案内いたしますので、ご確認ください。

- ・発表申込期間:2022 年 7 月 1 日 (金) ~7 月 25 日 (月) ※一斉メール及び学会ウェブサイトで案内
- ・発表可否通知:2022年9月上旬 ※発表可否通知メール送信
- ・原稿提出締切:2022年9月26日(月)

=理事会便り=

(2022 年 3 月 26 日に 2021 年度第 4 回理事会が開催されました。 詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されます。)

● 新規課題研究の選定について

新規課題研究として1課題④が選定され、2022年度は4課題の課題研究が進められることになりました。

- ① 「大学教育における質的研究の可能性」研究代表者:山田嘉徳、研究期間:2020年4月~2023年3月
- ② 「コロナ禍がもたらす大学教育の可能性」研究代表者:塚原修一、研究期間:2021年4月~2024年3月 サブテーマ I 「非対面大学教育における学修成果の評価」(代表者:塚原修一) サブテーマ II 「ニューノーマル時代における学習環境デザインモデルの構築」 (代表者:千葉美保子)、
- ③ 「大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究」研究代表者:福留東土、研究期間:2021年4月~2024年3月
- ④ 「SDGsの観点から考える大学の現状と持続可能な共生に向けて: 男女共同参画・教職協働・雇用形態の 3つの視点から | 研究代表者: 吉永契一郎、研究期間: 2022年4月~2025年3月

● 第17回大学教育学会奨励賞について

第17回(2021年度)大学教育学会奨励賞は、以下2名の方が授賞されることになりました。(敬称略) 6月4日(土)の2022年度事業報告会において授賞式が執りおこなわれます。

岩田貴帆(京都大学大学院教育学研究科)

【受賞対象論文】『大学教育学会誌』第42巻1号掲載《事例研究論文》「協議ワークを取り入れたビアレビューによる学生の自己評価力向上の効果検証」

武藤浩子(東京大学高大接続研究開発センター)

【受賞対象論文】『大学教育学会誌』第 41 巻 2 号掲載《事例研究論文》「学生の質問行動に影響を与える要因の検討」

●「JACUEセレクション2022」の認定候補について

「JACUE セレクション 2022」として以下の 8 冊が認定候補となりました。

- 6月4日(土)の2022年度事業報告会において認定式が執りおこなわれます。
- ① ブルース・マクファーレン著 齋藤芳子・近田政博訳(2021)「知のリーダーシップー大学教授の役割を再考する」 玉川大学出版部
- ② 串本剛編(2021)「学士課程教育のカリキュラム研究」 東北大学出版会
- ③ カール・ワイマン著 大森不二雄・杉本和弘・渡邉由美子監訳(2021)「科学立国のための大学教育 改革-エビデンスに基づく科学教育の実践」 玉川大学出版部
- ④ 山田礼子・木村拓也編著(2021)「学修成果の可視化と内部質保証-日本型 IR の課題」 玉川大学 出版部
- ⑤ 保田幸子著(2021)「英語科学論文をどう書くかー新しいスタンダード」 ひつじ書房
- ⑥ A・L・ビーチ他共著、林透・深野政之・山崎慎一・大関智史訳(2020)「エビデンスの時代の FD 現在から未来への架橋」 東信堂
- ⑦ 谷美奈著(2021)「「書く」ことによる学生の自己形成-文章表現「パーソナル・ライティング」を通して」 東信堂
- ⑧ 園山大祐編著(2021)「フランスの高等教育改革と進路選択―学歴社会の「勝敗」はどのように生まれるか」明石書店

=事務局から=

● 会費納入のお願い

2022年度会費・2021年度迄の会費未納分を含めた会費請求書・郵便払込取扱票を同封しております。 また、準備の都合上、既に納付済みの方にも請求書が送付されている場合がございます。ご容赦いただき ますようお願いいたします。

納入は、下記<u>オンライン決済</u>をご利用いただけます。また、従来の郵便振替口座をご利用いただくことも可能です。領収書につきましては、下記オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座 00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からのご入金を希望される場合は、入金前に必ず、

以下の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

【入退会·会員登録情報変更·会費納入状況についてのお問い合わせ先】 大学教育学会 学会業務取扱センター

TEL:03-5981-9824、 FAX:03-5981-9852

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。 納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。 また、学会誌への投稿、大会及び課題研究集会での発表申込みは、申込時の当該年度分までの会費が納入 済みであることが条件となっております。

● 年会費のクレジットカード決済のご案内

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。

同時に領収書のオンライン発行も可能となりましたので、ご利用ください。

大学教育学会ウェブサイト・トップページにある「年会費オンライン決済」のボタンをクリックし、「オンライン決済ログイン」もしくは「領収書発行ログイン」のどちらかを選択します。

<オンライン決済の場合>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
- ② オンライン会議決済のページに移り、会費請求額が示されますので、ご確認の上、決済金額をご入力ください。
 - *過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。
 - *デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみの決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
- ③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。
 - *クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社に送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。
- ④ 未納の会費がない場合は、「未納の会費請求データが見つかりませんでした」と表示されます。

<領収書のオンライン発行の手順>

- ① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員 ID とパスワードを入力し、ログインします。
- ② 会員情報管理メニューの「年度別に会費を照会する」のボタンをクリックします。
- ③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
- ④ 領収書発行の画面の指示に従ってください。

● 2022年度課題研究集会について

2022年度課題研究集会は、2022年11月26日(土)・27日(日)の2日間オンラインにて開催(担当校: 東京都立大学)されます。 詳細については今後メールマガジンやニュースレター等でご案内していきます。

● 2022年度(第18回)大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。

受賞対象者は本学会個人会員です。2022年度(第18回)は、第41第1号から第44巻第2号までの過去 4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内) <他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)

募集締切 2023年1月10日(火)必着

送付先 大学教育学会事務局 office@jacue.org 宛

●「JACUEセレクション2023」の募集について

大学教育学会は、各大学の大学教育改革、効果的な大学教育実践を支援するために、優れた書籍を選定し、「JACUEセレクション」として広く紹介することにしています。

「JACUEセレクション2023」の募集要項は、12月上旬に公表する予定ですが、これまでのJACUEセレクションについては当学会ウェブサイトをご覧ください。

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で変更をお願いいたします。ID(会員番号)・PWを紛失された方は、大学教育学会学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。 しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて jacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

● オンライン検索サービスについて

従来の会員名簿に代わり、会員検索が可能なサービスです。個人会員、団体会員が利用可能です。検索 対象は個人会員のみです。

情報検索項目(基本情報)は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4項目で検索(部分検索)可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

こちらのサービスを利用される際にも、ID(会員番号)・PWの入力が必要になります。



【学会事務局】

〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

Tel/ Fax: 042-707-8112 E-mail:office@jacue.org

【入退会·会員登録情報変更·会費納入状況についてのお問い合わせ先】 大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2大住ビル401号室

TEL:03-5981-9824、 FAX:03-5981-9852 E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp